

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成20年8月21日(2008.8.21)

【公表番号】特表2004-507612(P2004-507612A)

【公表日】平成16年3月11日(2004.3.11)

【年通号数】公開・登録公報2004-010

【出願番号】特願2002-524034(P2002-524034)

【国際特許分類】

C 11 D	17/00	(2006.01)
A 47 L	13/17	(2006.01)
B 08 B	3/08	(2006.01)
C 09 K	15/06	(2006.01)
C 09 K	15/08	(2006.01)
C 09 K	15/24	(2006.01)
C 09 K	15/34	(2006.01)
C 11 D	3/20	(2006.01)
C 11 D	3/33	(2006.01)
C 11 D	17/04	(2006.01)
C 11 D	17/08	(2006.01)

【F I】

C 11 D	17/00	
A 47 L	13/17	A
A 47 L	13/17	B
A 47 L	13/17	Z
B 08 B	3/08	
C 09 K	15/06	
C 09 K	15/08	
C 09 K	15/24	
C 09 K	15/34	
C 11 D	3/20	
C 11 D	3/33	
C 11 D	17/04	
C 11 D	17/08	

【手続補正書】

【提出日】平成20年6月13日(2008.6.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】硬質表面から脂肪性の汚れを除去する方法であって、

(a) 洗浄用界面活性剤および抗酸化剤を含む組成物を用いて表面を処理するステップ

、
(b) 汚れを堆積させるステップ、および

(c) 表面を洗浄して前記汚れを除去するステップ、
を順に含む方法。

【請求項2】抗酸化剤を前記表面に液体希釈形態で施用する、請求項1に記載の方

法。

【請求項 3】 組成物が 0.1 ~ 10% の抗酸化剤を含む、請求項 1 または 2 に記載の方法。

【請求項 4】 抗酸化剤が天然の抗酸化剤である、請求項 1 ~ 3 に記載の方法。

【請求項 5】 抗酸化剤が、以下の基礎構造：

【化 1】



の 1 つ、または上記式中、一方もしくは両方の OH (好ましくは一方のみ) の H が有機基によって置換されているその誘導体を含む、請求項 1 ~ 4 に記載の方法。

【請求項 6】 抗酸化剤がアスコルビン酸、およびその塩、およびアスコルビル誘導体を含む、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 7】 基礎構造が 1, 2 - または 1, 4 - ジヒドロキシベンゼンユニット、またはそれらの誘導体である、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 8】 抗酸化剤が、コーヒー酸、フェルラ酸、ロスマリン酸、およびバニリン酸、並びにそれらのエステル、アミドおよび塩、セサモールおよびその誘導体、トコフェロールおよびトコトリエノールから選択される、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 9】 基礎構造が 3, 4, 5 - トリヒドロキシベンゾイルユニット、または置換されたその誘導体である、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 10】 抗酸化剤が、没食子酸およびそのアミドおよびエステルおよび塩、タンニン酸およびそのエステルおよび塩、タンニン、エピガロカテキンガレートおよびテアフラビンジガレートから選択される、請求項 9 に記載の方法。

【請求項 11】 抗酸化剤を含む前記組成物が、該組成物を含浸させた拭き物により施用される、請求項 1 ~ 10 に記載の方法。

【請求項 12】 洗剤用界面活性剤をも含む組成物中の抗酸化剤の使用であって、該組成物が施用されている硬質表面からの脂肪性の汚れの除去を容易にするための、前記使用。

【請求項 13】 抗酸化剤を前記表面に液体希釈形態で施用する、請求項 12 に記載の使用。

【請求項 14】 組成物が 0.1 ~ 10% の抗酸化剤を含む、請求項 12 または 13 に記載の使用。

【請求項 15】 抗酸化剤が天然の抗酸化剤である、請求項 12 ~ 14 に記載の使用。

。

【請求項 16】 抗酸化剤が、以下の基礎構造：

【化 2】



の 1 つ、または上記式中、一方もしくは両方の OH (好ましくは 1 方のみ) の H が有機基によって置換されているその誘導体を含む、請求項 12 ~ 15 に記載の使用。

【請求項 17】 抗酸化剤がアスコルビン酸、およびその塩、およびアスコルビル誘導体を含む、請求項 16 に記載の使用。

【請求項 18】 基礎構造が 1, 2 - または 1, 4 - ジヒドロキシベンゼンユニット、またはそれらの誘導体である、請求項 16 に記載の使用。

【請求項 19】 抗酸化剤が、コーヒー酸、フェルラ酸、ロスマリン酸、およびバニリン酸、並びにそれらのアミドおよびエステルおよび塩、セサモールおよびその誘導体、トコフェロールおよびトコトリエノールから選択される、請求項 18 に記載の使用。

【請求項 20】 基礎構造が 3, 4, 5-トリヒドロキシベンゾイルユニット、または置換されたその誘導体である、請求項 18 に記載の使用。

【請求項 21】 抗酸化剤が、没食子酸およびそのアミドおよびエステルおよび塩、タンニン酸およびそのエステルおよび塩、タンニン、エピガロカテキンガレートおよびテアフラビンジガレートから選択される、請求項 20 に記載の使用。

【請求項 22】 抗酸化剤を含む前記組成物が、該組成物を含浸させた拭き物により施用される、請求項 12 ~ 21 に記載の使用。

【請求項 23】 抗酸化剤および洗浄用界面活性剤を含む製品の製造における抗酸化剤の使用であって、前記製品は硬質表面を処理して、後に該硬質表面上に堆積する脂肪性の汚れをより容易に除去可能にするためのものである、前記使用。

【請求項 24】 製品が液体である、請求項 23 に記載の抗酸化剤の使用。

【請求項 25】 製品が拭き物である、請求項 23 に記載の抗酸化剤の使用。

【請求項 26】 抗酸化剤が天然の抗酸化剤である、請求項 23 ~ 25 に記載の抗酸化剤の使用。

【請求項 27】 抗酸化剤が、以下の基礎構造：

【化 3】



の 1 つ、または上記式中、一方もしくは両方の OH (好ましくは 1 方のみ) の H が有機基によって置換されているその誘導体を含む、請求項 23 ~ 26 に記載の抗酸化剤の使用。

【請求項 28】 抗酸化剤が、アスコルビン酸、およびその塩、およびアスコルビル誘導体、コーヒー酸、フェルラ酸、ロスマリン酸、およびバニリン酸、並びにそれらのアミドおよびエステルおよび塩、セサモールおよびその誘導体、トコフェロールおよびトコトリエノール、没食子酸およびそのアミドおよびエステルおよび塩、タンニン酸およびそのエステルおよび塩、タンニン、エピガロカテキンガレートおよびテアフラビンジガレートから選択される、請求項 27 に記載の抗酸化剤の使用。

【請求項 29】 0.05 ~ 4.5 重量 % の量の洗剤用界面活性剤を含み、12 未満の pH を有し、21 s⁻¹ のせん断速度で少なくとも 100 mPa s の粘度を有している液体組成物であって、ここで前記組成物は 0.1 ~ 5 重量 % の天然の抗酸化剤を含み、前記抗酸化剤は、1.2 - または 1.4 ジヒドロキシベンゼンの基礎構造を有している、前記組成物。

【請求項 30】 天然の抗酸化剤が 0.1 ~ 1.5 % の量で存在する、請求項 29 に記載の組成物。

【請求項 31】 増粘剤をも含む、請求項 29 および 30 に記載の組成物。

【請求項 32】 増粘剤がキサンタンガムである、請求項 31 に記載の組成物。

【請求項 33】 粘度が少なくとも部分的には、前記組成物中の 1 種以上の界面活性剤、および場合によって電解質に起因する、請求項 29 ~ 32 に記載の組成物。

【請求項 34】 天然の抗酸化剤が、コーヒー酸、フェルラ酸、ロスマリン酸、およびバニリン酸、並びにそれらのアミドおよびエステルおよび塩、セサモールおよびその誘導体、トコフェロールおよびトコトリエノール、没食子酸およびそのアミドおよびエステルおよび塩、タンニン酸およびそのエステルおよび塩、タンニン、エピガロカテキンガレートおよびテアフラビンジガレートから選択される、請求項 29 ~ 33 に記載の組成物。

【請求項 35】 0.05 ~ 5 % の金属イオン封鎖剤をさらに含む、請求項 29 ~ 34 に記載の組成物。

【請求項 36】 封鎖剤がクエン酸またはフォスフェートである、請求項 35 に記載の組成物。

【請求項 37】 請求項 29 ~ 36 のいずれかに記載の液体組成物を含む、拭き物。

【請求項 38】 液体用のディスペンサーであって、請求項 29 ~ 36 のいずれかに

記載の液体組成物を含む貯蔵器と、前記液体をスプレー形態で分配するスプレー手段とを備える、前記ディスペンサー。

【請求項 39】 スプレー手段が引き金式スプレーである、請求項 38 に記載のディスペンサー。

【請求項 40】 液体が金属イオン封鎖剤を含む、請求項 38 または 39 に記載のディスペンサー。

【請求項 41】 組成物が 0.1 重量 % 未満の洗剤用界面活性剤を含む、請求項 38 ~ 40 に記載のディスペンサー。

【請求項 42】 機械による食器洗浄作業で使用するための組成物であって、少なくとも 0.1 % の下記に示す基礎構造の 1 つ：

【化 4】



または、上記式中、一方もしくは両方の OH (好ましくは一方のみ) の H が有機基によって置換されているその誘導体を含む抗酸化剤を含む、前記組成物。

【請求項 43】 リンス助剤である、請求項 42 に記載の組成物。

【請求項 44】 クエン酸および / または湿潤用界面活性剤を含む、請求項 43 に記載のリンス助剤。